

## 令和6年度第2回県北広域振興圏地域運営懇談会 会議録

日時：令和6年12月5日（木）13：30～15：30

場所：二戸地区合同庁舎 3階 機能訓練室

### 1 開会

【阿部副局長】 定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第2回県北広域振興圏地域運営懇談会を始めさせていただきます。

私は本日の進行を務めます、二戸地域を担当する副局長の阿部と申します。皆様には、日頃、大変お世話になっております。

それでは初めに、県北広域振興局の佐々木局長から御挨拶を申し上げます。

### 2 挨拶

【佐々木局長】 皆さん、こんにちは。県北広域振興局長の佐々木でございます。本日は大変お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

本来であれば、今日は、一番たくさんの皆さんにお集まりをいただけるということで決めた日だったんですけど、やっぱり年末、皆さんお忙しい中ということで、いろんな事情で御欠席なさる方も増えてしまいまして、少し我々も開催の日とかを工夫しなきゃいけなかったなあと、少し反省しているところでございます。少人数でございますけれども、たくさん発言する機会があるかと思っておりますので、御忌憚のない御意見を頂戴できればと思います。

今回は7月26日以来の4ヶ月ぶり、2回目の開催ということになります。この間、委員の皆さんにも様々な場面でお会いする機会がございまして、いろんな御活躍の様子を拝見することが出来たと思っております。皆さんの活躍に私も大変元気づけられた場面が多くありましたし、改めて様々な観点から御意見をいただくにふさわしい活躍をされているなど感じたところでございます。

振興局ではこの間、今年度の事業を進めながら、去年の事業の振り返りでありますとか令和7年度に向けた取組の方向性を、いろんな観点から検討をしてきたところでございます。

特に地域の大きな課題となっております人口減少対策については、重要なテーマとして、様々な現状を踏まえて、あれもこれもではなく、メリハリのある取組をやっていかなくちゃいけないのではないかなと思っております。

本日はそういった振興局の考える7年度の施策の方向性について皆さんに御説明して、忌憚のない御意見を頂戴したいと思っております。

今、県では年末年始にかけまして、大体7,000億円を超えるんじゃないかなと思っておりますが、予算編成が行われています。振興局予算も要求いたしまして、様々な折衝調整が行われているような状況でございます。

これから県全体の予算の動向、我々も注視し、関与しながら、地域課題にきめ細かに対応するための地域経営推進費、局独自で持っている予算があるんですが、そういった予算をどうやって使っていくのかというようなところの検討に軸足が移っていくということに

なります。

そうした中、皆さんからいただいた御意見を可能な限り取り上げることができないかなと思っておりますので、限られた時間ではございますけれども、忌憚のない御意見を頂戴したいので、今日はどうぞよろしく願いいたします。

**【阿部副局長】** 次に、本日御出席の懇談会構成員の皆様及び県の職員の出席者につきまして、大変恐縮でございますが、お手元でございます名簿の配付をもって紹介に代えさせていただきます。

なお、本日は御都合により、高浜 菜奈子様、田村 憲史様、中村 敏昭様、新里 周一様、廣内 留美様、吹切 秋則様、古舘 裕樹様は御欠席でございます。

また、名簿、一番上の阿部 歩様も急遽、御欠席となりましたが、名簿の訂正が間に合いませんでしたので、大変申し訳ございませんが、このままということで御了承を願います。

なお、久慈の本局に居ります各部長たちがこちらの Zoom 方で参加をしておりますので、名簿に記載ございませんけれども、申し添えておきます。

さて、議題、議事に入ります前に、配付資料の確認をさせていただきます。本日は、お手元に、出席者名簿、座席表、県北広域振興圏地域運営懇談会設置要綱の3つをお配りしております。また、事前に配布しております次第の下の箱書きに記載をしております資料につきましては、事前に構成員の皆様へ送付しております。不足の資料がございましたらば、事務局の方までお知らせいただければと存じますが、大丈夫でしょうか。

それでは、次第の「3 議題」に入らせていただきます。

地域運営懇談会設置要綱第4の規定により、懇談会は局長が主催することと定められておりますので、以降、振興局長が司会を行います。

### 3 議事

**【佐々木局長】** まず今日の進め方について御確認をさせていただきますが、議題の令和5年度の施策評価結果、それから令和7年度の施策の方向性について、事務局から一括して説明したいと思っております。その後、皆様から、大体、それぞれ5分ぐらいでお話をいただきまして、全員、一通り御発言いただきまして、再度御意見のある方に発言いただきたいと思っております。

今日は特に何かを取りまとめるということではございません。それぞれのお立場でお考えのことをお話してください。

それでは議題に入ります。令和5年度県北広域振興圏施策評価結果、それから令和7年度における県北広域振興局の施策の方向性について、事務局から説明をいたします。

**【山本企画推進課長】** 皆さん、こんにちは。事務局の企画推進課長 山本です。座って説明させていただきます。

では、まず、令和5年度の県北広域振興圏施策評価結果ですが、お手元の資料の1-1を御覧いただければと思います。

県では、岩手県民計画地域振興プランの着実な推進を図るため、重点施策の取組状況につきまして、県北圏域の重点指標を定め、その重点施策を推進するための具体的な推進方策と、目標を設定し、毎年度の目標の達成状況を評価、検証しまして、翌年度以降に繋げていく、いわゆるPDCAサイクルを回しながら業務を進めているところでございます。指標によっては、翌年度にならないと数値が確定しないものもございまして、このタイミングでの取りまとめとなっております。

資料の2番目、具体的な推進方策の達成状況でございます。令和5年度、89指標ございますが、そのうち、概ね達成以上となった指標は、79.8%、71指標でございます。下の米印、ちょっと小さい字で恐縮ですが、令和4年度までは、第1期プランの期間に当たりまして、令和5年度から第2期プランに移行してございます。そのため掲げている指標数が異なっておりますので、単純な前年との比較にはならないんですけれども、令和4年と比較しますと、11.4ポイントの上昇になっているという状況でございます。

ただ一方で、18の指標は、やや遅れまたは未達成となっております。その主な要因としましては、水色で囲んでございますが、天候や海洋環境の変化などによる農林水産業分野における生産量などへの影響ですとか、部品の全国的な調達難等による社会基盤整備分野における工事への影響などが挙げられてございます。

また、資料の下半分ですが、県北広域振興局が掲げております3つの振興施策の基本方針ごとの状況を示してございます。(1)の「達成または概ね達成」、こちらは主な指標のみの掲載となっております。(2)の「やや遅れまたは未達成」の指標につきましては、すべて記載をしております。この中でも太字ゴシック体のものは未達成の指標ということになってございますので御確認いただければと存じます。

それでは続けて資料1-2、施策評価調書でございますが、本日は時間の都合上、概要のみの説明とさせていただきます。資料1-2、1枚めくっていただきまして、こちらの1ページ目のところは、地域振興プランに掲げております14の重点施策ごとに、達成から未達成までの評価区分別の指標の数を集計したものととなっております。

2ページに進んでいただき、ここからは重点施策ごとの評価調書をまとめたものでございます。調書の構成につきまして、2ページ目から4ページ、こちらの重点施策の1番、「多様な交流連携により地域コミュニティを活性化します」の調書を参考に御説明させていただきます。

2ページ上段には、県北広域振興圏において特に重点的に取り組む重点施策、それから取組の基本方向を記載してございます。

中ほど、現状と課題ですが、こちらは状況変化に応じまして、随時内容の変更などを行ってございます。

その下、県北圏域の重点指標、こちらには指標の推移、それからその当該年度のコメントを付してございます。

隣3ページに参りまして、当該年度の主な取組実績と、この取組の評価を記載してございます。

4ページの方に参りまして、表の左側でございますが、県が取り組む具体的な推進方策、

その右側に指標ごとの達成度測定をお示しし、調書の最後のところに今後の取組の方向性を記載しているというような構成となっております。

この重点施策におきましては、達成度測定を御覧いただきますとおり、③の「地域づくり活動の促進」、こちらに掲げております「コミュニティ助成申請団体数」は目標を下回り未達成という形になってございます。

それを受けまして、今後の取組の方向性の③でございますが、これまでの対象団体の事業活用事例のPRなど、今後その指標を改善するための取組について、この欄に記載をしてございます。

以上のような構成で、以降、重点施策ごとに調書をまとめてございます。事前に送付しているところでございますが、改めてこういう構成での調書となっておりますので、御確認いただければと存じます。

また、この調書、令和5年度の調書となっておりますが、今年度の現状と課題、また取組状況等を照らし合わせまして、令和7年度の取組の参考とするものでありますことを申し添えます。

さらに、この調書は暫定版となっております。構成員の皆様からの御意見も参考に最終版を取りまとめまして、最終的にはホームページで公表する予定となっておりますので、よろしく願いいたします。

続けて、令和7年度における県北広域振興局の施策の方向性について御説明をさせていただきますので、資料の2をお開きください。A4の横の資料でございます。

こちらの資料、まず1ページ目の上段でございますが、令和7年度の重点化の視点を示してございます。地域の現状と課題を踏まえ、人口減少対策を中心に、メリハリのある事業を展開することとしてございます。

今年度の市町村要望ですとか、地域課題分析型少子化対策支援事業のワークショップ、こちらのワークショップですが、今年度の事業でございまして、洋野町、野田村、普代村、田野畑村、そして、オブザーバーとして久慈市が参加いたしまして、4月から10月にかけて、延べ7回、少子化対策について検討作業を行ってございます。こちらのワークショップを通じて提案された取組、それからもう1つ、今年9月に、いわて女性の活躍促進連携会議、女性の就業促進部会の方から提案書を示されておまして、これらを施策に反映して参りたいと考えてございます。

また、施策展開に当たりましては、特に小規模自治体、概ね5,000人以下の自治体でございますが、県北管内であれば、九戸村、野田村、普代村が該当いたしますが、こういった小規模自治体に寄り添いながら伴走型の取組を推進して参ります。

その内容でございます。下の方見ていただきたいんですが、1番の人口減少対策につきましては、ただいまお話ししましたワークショップの成果を活用することとしまして、現在、市町村において検討されている施策を伴走型で支援して参ります。

また、ワークショップで広域事業とされた内容や、女性の就業促進部会からの提案、こちらの1ページ目の現状と課題のところにもポツでお示しているところでございますが、住宅対策、また岩手の豊かさ、暮らしやすさのPR、情報発信、若者女性が働きたいと思える企

業への変革、企業の意識改革、地元企業への高等教育人材確保などの趣旨を施策に生かして参ります。

具体的な取組としまして、資料おめくりいただいて、2ページを御覧ください。右側の具体的な事業内容、(4)でございますが、働きやすい職場環境づくり支援としまして、男女間、世代間のアンコンシャスバイアス、例えば男性は仕事、女性は家庭、若者は雑用の仕事だといったような、いわゆる無意識の偏見や思い込み、こういったことの解消、また、企業の高等教育人材の確保に向けた経営層向けのセミナー、研修会を開催しまして、管内企業の意識改革を図って参りたいと考えてございます。

次の3ページでございます。(1)、キャリア教育であります、引き続き、小中学生向けの職業体験や工場見学などを実施しますとともに、県北地域には高等教育機関がなく、進学期に転出する若者が多いことから、将来的なUターンや高等教育人材の地元就職の促進を図るため、来年度におきましては、新たに久慈高校、福岡高校など進学を希望する高校生を対象とした企業訪問ツアーやキャリア講座を実施したいと考えてございます。

また、新卒者の3年以内の離職率が高いという現状がございますので、(2)のとおり、若者の職場定着に向け、新規学卒から3年目までの社員向けセミナーや交流会を引き続き実施します他、併せて、こうした新卒職員の意識を企業にフィードバックするなど、企業向けの取組を強化しております。

ページをおめくりいただき4ページに参りまして、移住定住(3)20ページの取組であります、引き続き、県と関連市町村で構成します県北地域移住定住推進プロジェクトチームにおいて広域的な施策を展開して参ります。具体的にはカタカナのAでございますが、今年度、定員を超える応募がございました広域移住体験ツアーを継続実施したいと考えております。この広域移住体験ツアーであります、今年度、二戸、久慈地域それぞれで実施いたしました。2泊3日の行程で、それぞれの管内の市町村を回りながら、移住者の方々との、意見交換ですとか、また町中散策、様々な体験交流といったものを、行程に組んで実施をいたしております。それぞれのツアー募集定員9名でありましたが、二戸では、10月11日から13日まで実施しまして応募が12名、久慈は11月2日から4日に開催して応募が16名ございました。こういった応募される方々、やはりこの地域への移住に関心が高いということに着目をいたしまして、来年度におきましては、公募の取組を強化をいたしまして、選考外だった方々も含め、応募をいただいた方に対する地域の具体的な情報発信などで、手厚いフォローを行いたいというふうに考えております。

また、ウであります、移住者などの地域の生活者を紹介する動画ですとか、都市部との可処分所得の違い、居住環境、子育て環境など、県北地域の暮らしやすさをPRする移住者向けリーフレットを作成いたしまして、移住関連の情報発信をさらに強化したいと考えております。特に前回懇談会におきましても、構成員の皆様からは、県北地域には魅力的な人、仕事、豊かな生活があるといったお話いただいております。そうした県北地域の姿をよりわかりやすく発信する取組を進めたいというふうに考えております。

オの住宅対策につきましては、現在、本庁関係部との連携、または局の予算であります地域経営推進費を活用した取組を現在検討しているところでございます。

それから、その下(4)、地域おこし協力隊であります。現在の現役隊員、管内は74名いらっしゃいますが、実は令和7年度末にはその半数を超える42名の方が任期を終了する見込みであることから、主に就任2年目から3年目の隊員を対象に、任期終了後の進路を見据えたフォローアップ研修を充実させて参ります。

それから5ページの方になります。(5)であります。新型コロナの5類移行によりまして、観光入込客数が回復基調でございます。交流人口、関係人口の拡大に向けた取組をさらに推進して参りたいと考えております。具体的には、アとしまして、豊かな地域資源とアクティビティを組み合わせた北岩手アドベンチャーツーリズムの取組を継続し、ツアー商品構築に向け実証事業を実施して参ります。また、その下の隣接する八戸圏域へのプロモーションを強化しますとともに、ウであります。御所野遺跡の関係では、集客、周遊の取組を促進するため、青森県内ですでに実施され好評を博しております縄文カード、遺跡からの出土品などをカード化したものであります。こうしたものの作成配布を行って、コレクターの県内誘導なども図って参りたいということです。それから、北いわて、お城コンシェルジュに、写真の方にも掲載してございますが、今年9月に県北局の方で気象キャスターの久保井朝美さんを委嘱してございますので、久保井様と連携しながら、県北地域の歴史文化資源の情報発信を強化して参りたいと考えております。

6ページに参りまして、このページからは地域振興プラン関係の取組について記載をさせていただきます。プランは、大きく3つ柱がございまして、この柱に基づき取組を進めるものであります。時間の都合上、これまで、人口減少対策として説明したものを除きまして、主に新規の取組などにポイントを絞ってご説明をさせていただきます。

まず1つ目です。隣接圏域とのつながりを生かし、一人ひとりが健康で心豊かに暮らせる地域に関する取組でございます。こちら右側中ほどでございます。自殺対策推進の取組としまして、現在の小規模町村支援の一環としまして、九戸村で、保健所、市町村、ボランティア等の連携による自殺対策の取組を実施してございますが、こちらを来年度は軽米町にも拡大して実施したいと考えてございます。

次の7ページでございます。こちらは柱の2つ目で、自然豊かで再生可能エネルギーを生かした災害に強い地域に関する取組でございます。今年度は8月、台風第5号がありましたが、この際、滝ダムという県営の久慈市にあります多目的だと思っております。この施設が河川の氾濫防止に大きな効果を発揮したところでございます。そこで右側の(2)の減災のためのソフト施策としまして、防災減災インフラについての理解を深めるためのツアーですとか機能広報の取組をさらに推進して参りたいと考えております。

めくって8ページ、柱の3つ目であり、ここに記載しているのは、この地域資源を生かした産業が展開し、意欲を持って働ける地域に関する取組であります。

まず1の農業に関しましては、右側(2)にあります。新たな水稻品種岩手141号が、来年度本格的にデビューすることから、安定生産に向けた栽培指導の強化を図るとともに、生産者、消費者双方に向けたPR活動を強化して参ります。

次の9ページ。右側下の(5)のアであります。近年、大きな課題となっております鳥獣被害防止対策としまして、新たに被害防止対策モデル集落を設定しまして、防護柵設置等の

支援を行います。その下、イは、囲い罟による大量捕獲の実証事業に取り組んで参ります。

次の10ページに参りまして、一番下(3)でございますが、地域材の利用促進としまして、これまで未利用となっております林地残材などを出荷し、バイオマス燃料として安定的に供給する体制を整備促進して参ります。

次に、11ページ、水産業の関係でございますが、右側の(4)は、漁業者の経営安定化策の1つであります海業につきまして、引き続き漁業者の理解醸成を図りますとともに、来年度は魅力的なコンテンツの発掘、磨き上げ、情報発信を強化して参りたいと考えております。

次のページ、12ページの4、食産業及びものづくり産業の振興でございますが、右側、(1)次世代を担う地域産業人材育成としまして、新卒者、高等教育人材の確保に向け、高校生向けキャリア講座などを実施します他、(2)、(3)にありますとおり、引き続き、食産業、ものづくりコーディネーターを配置し、事業者のニーズを把握しながら必要な支援を伴走型で実施して参ります。

次に最後の13ページでございます。今後の観光振興に係る取組ですが、先ほど、交流人口、関係人口の拡大に向けた取組として御説明した内容の再掲となります。引き続き、人口減少対策の一環として、重点的に取り組んで参ります。

本日御用意いたします資料の説明は以上でございますが、本日の資料ではお示ししておりませんが福祉、環境ほか、各分野におきましても、市町村、事業者、関係機関等の皆様と一体となって取組を進めて参りたいと考えてございます。

また、本日御説明した内容は、これから本格的にスタートいたします来年度の予算要求に向けた県北局の方針案でございます。事業内容のさらなるブラッシュアップを図るため、本日の懇談会におきまして、構成員の皆様の御意見なども参考にさせていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。事務局の説明は以上でございます。

**【佐々木局長】** 一気に2つの中身を御説明しました。それでは、ただいまの説明について、皆様から順次、御発言を頂戴したいと思っておりますが、「私が」という方がいらっしゃいましたら、御発言いただきたいのですが、いかがでしょうか。

いらっしゃらないようですので、また順番にということになります。前回は岩本さんの方からでしたので、今回は、松川さんの方から、順番にお願いできればと思っておりますが、いかがでしょうか。

**【松川構成員】** はい、大丈夫です。

発展させていこうというか、もっと地域の隅々のよさだったり人だったりをPRしたり、発信して、よりよい岩手にしていくというような思いが伝わって、感じられて素晴らしいなと思って聞いておりました。

何点かメモをとって、どこから話したらいいかっていうところはあるんですけども、一番自分の身の回りで気になっていることと言えば、地域おこし協力隊の辺りです。せっかく移住して頑張っていこうという思いの人達って、私たちが当たり前にしてるものに、これはすばらしいよって価値を見出してくれたり、何か新たな視点で地域の産業に繋がるよって言っ

てくださったりするんだけど、身近にありすぎて、「何、そんなもの」みたいな感じで、すごくその辺が、地域おこし協力隊を地域に市町村にお任せするだけでは、せっかく移住して、地域おこしするぞという思いのある人たちの人生を大切に扱うにはどうしたらいいのかと、ちょっと考えさせられることを結構聞くようになってきています。そういう方が移住して来たときに、市町村と、団体の方がいいと思うんですけど、来る、来ようと思う人たちの間に入る県職員の皆さんのような、あと、コンシェルジュのような何かいろいろコーディネートするというか、市町村のニーズと来た人の見出だした価値とか思いとかを、間に入って、何か橋渡しするとかが必要。直接的に、そこに移住するっていうことは、ずっと市町村にもお世話になるし、その方が暮らしていく、そういう間柄だけで話をさせておくのは結構きつい状況があるんじゃないかっていうことを最近聞きます。任期が終わった方たちが思っていたことと違う未来に置かれてしまったような話とかも聞こえてきたりすると、何とかならなかったのか、もっと、そういう思いを持ってせっかく岩手とか久慈地域に来てくれた人たちに何ができたのか、最近すごく考えさせられております。その時に、県として、岩手で暮らしやすいんだよとか、こういう魅力があるよって言う部分のバックアップを、小さい地方だけじゃなく、やっぱり岩手県としても、間に入るじゃないけど、状況を把握しながらお手伝いいただけると、よき方向に導くと思うところがあります。

あと、若者が岩手県から出ていく一方で、夢を追いかけて出て行くのは仕方がないが、でも、帰ってきたときに、それを叶えるというところは、やっぱり地域おこし協力隊の話とすごく似ていて、思ったことができるのか、その思いをどうやって形にできるんだろうというとき、すごい手続きが複雑だったり、担当として置かれている地域の窓口が、実は、あまりその制度をわからない場合とかあったりすると、その若者が思いを持っていても、お金なくて戻ってくるだろうし、お金の部分だけじゃなく、住むところだったり、こういう人がいるんだよというところだったり、そういう人と人を繋いで、その人本人も暮らせる体制ができて、そして市町村だったり地域の風土文化に馴染んでいけるような仕組みは、どうやってつくっていただけるんだろう、自分には何ができるだろうかと思って聞いていました。

**【佐々木局長】** 協力隊の話は非常に大事な話だと思っていまして、協力隊の制度そのものは、役場との繋がりという中での話ですので、繋がりが3年でなくなってしまったときにどうするのかというところが非常に重要、課題だろうと思います。そう言った視点での施策もやっぱり、来年度末には特に40人以上任期が終了する予定ですので、考えなければならない、その辺の話は、企画推進課長から。

**【山本企画推進課長】** 地域おこし協力隊は、各市町村の方で募集をかけ、御縁があってその市町村にいらした方です。だから、最終的な進路としては、できれば地域にとどまって欲しいと思っていますが、その方々が、いい思い出とか、いいこととか、何か糧を得てその地域を出て行く形になっても、それはそれで、地域のファンになって出ていただければ、すごくありがたいことだと思っています。そういった将来的な進路を具体的にするために我々もセミナー等を実施していますし、例えば国とか県におきまして、隊員の活動をサポートする

サポートデスクとかの制度は設けています。ですから、まずはその地域おこし協力隊の方々に、そういう市町村の関係だけじゃなくて、様々な形で皆様の活動をサポートする体制があるということ、きちんと情報提供することが必要なのかなと、普段からそういった形の情報提供を行っておりますけれども、改めて思っております。

それから、地域を一回出た方々も、地域にまた戻ってきて活躍する将来像、戻ってきた方々、様々な形で活動されてると思うんですが、どういった形で久慈に戻ってきて生活をされているのかというロールモデル、自分の将来像を描くときに参考となるような情報をいかに提供していけばいいのか、その中身をどういうふうに充実させていくのかというところは、我々も、これから市町村とも協力しながら、進めていけばいいのかなと思っております。

**【佐々木局長】** やっぱり、若い人たち、協力隊もそうですけれども、地域でどうやって生き生きと生活していくのかということは、非常に大事な視点だと思います。生活の糧を生み出す職業の話もありますし、地域に馴染んでいくにはどうしたらいいのかという視点もあります。様々、皆さんに御意見をいただき、我々も考えていくことが必要なんだろうと思います。1次産業なんかは、割と受け入れる体制、施策が充実しておりますので、その辺も含めて、また、何か御意見がありましたら引き続き今日のこの場で頂戴できればと思います。

皆さんに御発言いただきたいので、続きまして、中村さんお願いします。

**【中村構成員】** 皆さんこんにちは。九戸村で商売をしております有限会社中村一郎商店の中村と申します。日頃、振興局の皆様には、たくさん御支援いただいております、ありがとうございます。

先ごろ、10月の22日に行われました、「らら・いわて」の「秋の収穫祭」、こちらで「北いわての蜂蜜フェア」というものをやらせていただいたんですけれども、会場に多分いらっしゃるかな、二戸地域振興センターの食産業コーディネータの高群さんに御支援いただきまして何とかやることができました、本当にありがとうございます。

私の方は3点、4点ほどあります。いろんな観点から発言いたしますけれども、まず1点、先ほど話した蜂蜜の件です。私、事業者であります、ハチミツを作る養蜂家でもありまして、養蜂家になってから8年になるかならないかというところなんです、今、岩手県養蜂組合県北支部の副支部長を任せられておまして、岩手県北の蜂蜜を皆様に広く知らしめたいというふうに頑張っているところであります。なぜ、「北岩手の蜂蜜フェア」を打ったかと言いますと、県北は特にも大規模な養蜂場がございます、岩手県内の蜂蜜の生産量も、おそらく県北がナンバーワンではないかなと思っております。今後、地球温暖化も踏まえて、日本全国、おそらく、西日本の方は、ハチミツの生産量がなかなか上がってこなくなると思われ、逆に蜂蜜の生産量は、東北北海道の方が、上がってくるだろうと私は予想しています。そうなったときに、岩手の蜂蜜の凄さ、すばらしさというものを、やはり先に全国に知らしめていく必要があるんじゃないかというふうに思っています。そのために今回、「北いわての蜂蜜フェア」というふうに、県北に絞り込んで、ハチミツの素晴らしさを知っていただきたいという思いでフェアを組みました。それとともに、県北の蜂蜜は岩手県はちみつ品評

会、毎年開催されておりまして、県庁の畜産課の課長様も審査員としていらっしゃってるんですが、ほとんど最高賞を受賞してるのが県北の養蜂場の方々です。なので、品質も間違いなく素晴らしいということは折り紙つきですので、ここは今回、個人代表で蜂蜜フェア打ったんですけれども、今後は、できれば県北の皆様のお力をいただいて、岩手県、特に北岩手の蜂蜜というところにフォーカスをした展開というものを一緒に考えていっていただきたいなと思っております。

次に、先ほど松川構成員もおっしゃっておられました地域おこし協力隊の件ですが、私も松川構成員と同意見というか同じことを考えておりまして、来たはいいけど、ほったらかして3年が終わる直前になって、さあどうすんだどうすんだって騒いでるっていうのが、うちの九戸村でも同じであります。そして九戸村ではですね、住む場所がない、ないって言って、今年は募集1名しか掛けなかった。何でかという、卒業する人たちが、その家を出るかかわからないので確保しておかなきゃいけないから、そうすると空き家がないので、次の地域おこしの人たちを呼べない。私たち企業としては地域おこしの人たちの力を借りたいっていう思いも強くあるので、毎回、協議会の中でも、何でできないかっていう話をいつもします。そうすると、すぐ言えないから、中村さんアパート建ててくださいよ、なんて逆に言われるぐらいなんです。そういったところで、やっぱり矛盾というか、駄目っていうか改善していただきたいところがたくさんあります。やっぱり住む場所の確保が何よりも最優先であるということが1つ。

そして、卒業する人たちに定住していただくためには、やっぱり起業するとか、就職するとか、そういった生活の術を見つけなきゃならないわけなので、やっぱり、卒業したから、はい、さようなら、ぼんと外に送り出すのではなくて、3年間の間に、望む人が優先になるのですが、起業支援や伴走型というか、実際、伴走型支援を受けているんですけど、非常にプロのコンサルティングの先生が親身になって話を聞いてくださって、将来どういうふうに、卒業した後どんなふうな働き方をしたいのかとか、どんな収入を得たいのかとか、どこでどういう生活をしたのか、そういったところまで、おそらく手厚くやったださる。もう着任したら、3年を待たずに、3年後を見据えた支援の仕方、そういったものを確立していかないと続いていかないというふうに思います。やっぱりその不安から、結局、地方の田舎で暮らしていけそうにないから、都市に戻っちゃうっていうパターンになると思うので、やり方としてはそういったものがあるのかなと思います。振興局に居る西山さんという方も来てるんですが、今、ブランディングセミナーというものを九戸村でやったださる、月に1回、月末の水曜日の夜、開催しています。こちらは本当にながちりブランディングのセミナーで、全12回で1年間頑張っただり通せば、本当に何かしらの力という支援の仕方に、今、取り組んでる最中です。

それから、3つ目です。保健所の法律が変わった件ですね、漬物が売り場から消えた問題があるのは御存じだと思います。今年の6月施行の法改正で、従来型の施設では漬物がつくれなくなって廃業に追い込まれた個人事業主の方たくさんいらったださると思います。その結果、道の駅とか、そういった売り場で、漬物がなくなった。これって、商店とか店舗規模でいくと、魅力がなくなったっていうことなんです。漬物を食べたくても売ってないから行

かないってということで、集客は落ちるし、売上も下がるということで、すべてにおいて大打撃があったと思います。正直言って、この法改正自体は、大失策だと私は思います。これに対する事前のアナウンスというか警告は多分あったと思うし、勉強会とか、保健所さんでも説明会はあったんですけども、結局は、改正した法律を守るために設備投資をしなきゃできないってだけの説明だったので、諦めた人が多かったはずなんです。そこは、やっぱりきちんと、そうじゃなくて、見放すんじゃなくて、違う、もっとこういうやり方があるんですよっていうところを、何とかサポートしていただければなというふうに思います。地域の漬物ってというのは、やっぱり伝統文化なので、これが失われてしまうと一つの財産がなくなるのと同じ、ここの地域の歴史の一つが終わってしまうのと同じだと思いますので、改正して、もう半年以上になるんですけども、まだやりたいとか、その味を残したいっていう人たちがきつっていると思いますので、前向きに何かしらの提案っていうものがあつたらいいのかなというふうに思います。

では、最後です。私、ガソリンスタンドも経営していて、築40年のスタンドの店舗、かなり老朽化してるんです。雨漏りとかひどいんですけれども、修繕に300万円かかると言われて、ちょっと資材の高騰が凄すぎて、100万円できたのが300万円になってしまうというところが非常にきつくて、なかなか踏み切れておりませんが、やっぱり続けていかなきゃいけない業態もあるわけで、そういった古い設備とか施設とかそういう事業者で困ってるところに、ぜひ、補助金なり、支援をいただけたら本当にありがたいと思っております。

**【佐々木局長】** 大きく4つぐらいですかね、御意見頂戴いたしました。

はちみつ、県内でも誇るべき産地なのだとすることを、今、改めて、私も認識しました。これは、どうやって売っていくのか、知らしめていくのかというような取組というのが非常に大切だろうという個人の思いもあって、そのフェアをやられたとすることがあるようでございます。振興局の今年の重点、大きな考え方として、県北にはいいものがたくさんあるんだというのが基本的な考え方で、どうやって発信していくのかというのが大命題だと思っています。本当に残念なことに、Xとかインスタもなかったという状況があるんですけど、今年、遅ればせながら、そういうものを使って、たくさんの人に見ていただけるような環境もできましたし、広報セミナー、今年は2回ぐらい振興局の中でもやって、かなり発信の力つていうのがついてきたのではないかなと思っています。そういうものを、本庁の取組もありますし、振興局独自のネットワーク、流通のための仕組というのがありますので、やっぱり皆さんと相談しながら、しっかり取り組まなきゃいけない。そこは、今後、また御相談しながら、個別のことについては取組を進めたいと思います。

それから協力隊ですね、やっぱりおっしゃるとおりだと思います。いろんな思いを持って来ている。松川さんのお話もそうでしたけれども、ほったらかしにするというのは、やっぱり、よくないですね。こういった状況があるというのは3年前からわかってるわけなので、そこをどうやって繋いでいくのかというようなことをしっかり考えていかなきゃならないので、今年は2年目の方も対象としたそのプランニング、将来の人生設計のための講習会に取り組んでおりますし、やっぱり何が求められているか、我々もしっかり把握していかなけれ

ばいけないのではないかと。おっしゃるとおり住宅問題が非常に大きな問題となっているというのは、私、いろんな首長さんなんかと話をしても聞くことがございます。先ほど、あまり大した話ではできなかったのですが、本庁の方にもいろいろと、こういった問題があるということを発信しましたところ、空き家対策をやっている県土整備部というところに、非常に大きく興味を持っていただいて、いろんな提案をいただいているところでございます。こういった取組ができるかっていうのは、この場でなかなか申し上げにくいところがありますけれども、その地域で事業がなくて困っている建設業者の方々などとも協力しながらやっていく取組ができないのかというところで今、検討してまして、そういったハードに対する投資に対する補助ができるかどうか、あとはソフト的に周知だったり、活用するための方策をとれないのかというところをどうしようかといったことも含めて、やっておりますので、そこについては、もう少し具体的になったら、いろんな御意見をいただく機会を持てるかなと。いろんな危機感を持って取り組んでおりますので、御承知おきいただければと思います。

あと漬物の話ですけど、これは、保健福祉環境センターから。

**【高橋環境衛生課長】** こんにちは、保健所の環境衛生課長の高橋と申します。

漬物のことですが、新聞等でも大分大きく取り上げられて、廃業された方、また今、躊躇されてる方も多いというふうには認識しております。私どもの方でも、法改正のアナウンス、努力して参ったところですが、その設備投資にかかってしまうという話が大きく広がってしまったかもしれません。一方で、1年以上かけて、この夏に許可を取得された方もいらっしゃいます。担当の方で現地を見て、ここはこんな感じではどうでしょうか、あとは、事業を展開してる方も、こっちのやり方ならどうだろうかと、双方でコミュニケーションとりながら、事業再開というか許可に至った事例も、少なからずございます。保健所としましては、法定事項は事項として遵守いただく、一定の水準を満たしていただくのは当然のことではありますが、伝統産業を守っていききたいという思いも汲みつつですね、この形ではどうか、このやり方ではどうか、もっとお金をかけないやり方はないのかってところは一緒になって、今でも相談に足を運んでくださってる方も多くございますので、ここで諦めることなくですね、いつでも最適解を求めてコミュニケーションをとっていきたいと思っております。あと、保健所だけではなくて、食品衛生協会さんという窓口もございますので、事業者さんの集まりの中で、保健所に相談したいんだけどという声があれば、私どもの方でもそちらの方へと最大限汲み取って参りたいと思っております。

**【阿部副局長】** ガソリンスタンドの修繕の件ですけども、地域に必要なエッセンシャル機能というところだと思いますので、国の方ですと、何かそういった補助金あったかどうかというのは私も今すぐ出てこないんですけども、何かあったような気がします。やっぱり、この地域に必要な機能ということで、なくなったら困る業種ということだと思いますので、岩手県ではないですけど他県では住民が共同で出資する会社形式にするだとか或いは公設民営形式でやるだとかいうのもありますけれども、ただそれは、御自身の商売の継続ということが一義的にあるのだとすると、やはり事業者向けの補助金というところを探っていくこと

になろうかと思えます。今、石破内閣の方で地方創生交付金を倍増というようなことも言っていますので、何かそういったところの、そこがなくなると困るという業種に対する支援みたいなものもあればですね、いいのかなと思っています。その辺の状況を注視しながら、そういう制度があるかどうか、ちょっと私どもでも調べさせていただきたいと思えます。

**【佐々木局長】** よろしいでしょうか。何かまた引き続きありましたらば、二巡目、三巡目ということでお願いします。

続きまして、田家さん、お願いします。

**【田家構成員】** 皆さん、こんにちは。

僕からは施策の推進方針、とても明るい未来が見えるというか、本当に期待するところがございます。できることであれば、福祉と環境を載せてないということでありましたけれども、そちらもあったら、またすばらしいなど。岩手では産廃、大きなところですから、環境に対する発信をするという、とても大きいことだと思いますので、是非ともそういうところも検討していければと思います。

あと、進学校の皆様に企業を案内するということですが、どういった企業を想定しているのか気になります。これから大学に行かれる方に、例えばアパレルとか製造業見せてもしょうがないでしょうし、どういう企業を想定して考えているのか、勉強しなきゃいけない学生たちに違う課題を与えて、足かせに繋がるのかなと思って危惧しており、そこを聞きたい。

あと、評価、前回は発言させていただいたんですけど、達成、概ね達成、やや遅れ、未達成で、大体、概ね達成も達成の感覚でお話するじゃないですか。であれば、目標値を今以上高くして、80%いけたら達成だよというぐらいにした方が、モチベーションの持ち方でいいんじゃないかなと思う次第です。本来であれば、「できた」か、「できてない」のかの2択なわけですよ。そこを、4分割して、こちらも入る、入らないというふうにしていくのであれば、何か違う方法で、目標値を高く設定し、もう80%も70%も達成ですよと言った方がいいでしょう。

あと、目標を達成しないと、例えば担当課とか、何かペナルティーがあるわけでもないでしょうから、できる限り、目標を達成したらここで終わり、もうやらなくていいんだというところではなくて、やれるならもっとやったほうがいいでしょうし、そういうふうな方がいいんじゃないかなと思っておりました。達成しない担当のところには、モチベーション上がるセミナーとか、そういうものに出てやってもらうとかいうふうにすると、もっともって全体的なボトムアップというのができていくと思えますので、方針も考えていただきたい。これを個人店に当てはめると、売り上げをこれぐらい目標達成しなきゃいけない、達成できなかったってなると、従業員にやめてもらうことになっていくわけですから、やはり目標値というのは、そういうふうに定めて、本当にやりがいが出て、自分たちが達成してるので、次も、いい結果を出してやろうとなる。別に、目標達成しなかったとしても、やや遅れたと、何もお咎めもないとなったら、同じような労力でまた次の年度もやってしまう可能性が出てくるので、何かそういうところを改善してくような方向をと、考えておりました。学校のテ

ストもそうでしょうけど100点取ろうと思っても、80点、70点になるわけですから、目標値ってすごい高いところに設定しないと100点は取れないと思いますので、そういうような何かモチベーションを高く維持できるようなやり方を御検討いただきたい。

あと、この推進方針に、何か我々が発信したことで、これを取り入れましたというものがあれば、最初の方に御紹介いただければ、参考になる意見を我々構成員は言わなきゃいけないということで発信していき、よりよい会議の結果を生んでくるのかなと思います。

観光の話ですけど、県北ってすごい観光弱いなと思ってまして、この調書の方も、御所野にすごい人を集める目標が、半数ぐらいになっておりました。これはやはり、例えば、一戸単体でやるのも難しいでしょうし、岩手県がやるのも難しいというのを表している数値なんじゃないかと思いますので、この県北、人口減少もありますので、みんながタッグを組んで、何か発信する場所、例えば県北の窓口、電車・駅であれば二戸市、二戸の駅が窓口でありますので、あそこのビューのところを借りて、県北の魅力を発信するブースを作るだとか、こういうのを各地の観光協会、そういう施設で、やれないものかなと思っているところでもありますので、御意見をお聞かせ願いたい。二戸市では二戸観光協会という別の組織がありますが、役場の中の職員が、他の仕事も持ちながらそれを職務としてやっているという、なかなか厳しい現状も市町村ありますので、そういうところを県が主体となってまとめて、県北で一丸となって、お客さん呼んでくる、外貨を稼ぐために外から客を呼んでくる、そういう方針もいいんじゃないかなと思います。ぜひ、地経費の方でよろしく。

**【佐々木局長】** ありがとうございます。

皆さんの発言がどれだけ反映されたかっていう視点、大事ですよ。今ここで示せる材料がないので、次こういう機会ありましたら、こんな形で反映させていただきましたということと言えるようにしたいと思います。

それから、最初におっしゃっていただいた進学校の企業訪問のお話し。これは、どういう視点から進学校に企業を見せるという発想になったかということをお話したいんですけど、地域の高校の卒業生は半分以上が大学に進み、外に出てしまう。希望を持って行くということですけど、そういう方々が戻ってこない地域は、単に高等人材を送り出すためだけの地域になってしまうという危機感を持っていて、こういう方々が地域で生きていくには、どうしたらいいのかということの意識づけを高校生に持っていただくということが1つ。

あと、企業側に対してもあります。今、人材不足の問題がたくさんあって、企業だけではなくて、1次産業、2次産業もそうなんですけれども、そういったところで、高等人材をどうやって生かしていくか、高等人材がここで活躍する、できるような仕事の仕方っていうのはどういうことなのかということをしっかり考えていく、その一つのヒントというのが、人材不足なのであれば、いろんなどころに例えばDXを導入をして、仕事のプロセスを見直すような取組を進めていくための人材だと。あと、地域で完結しない、今、世界に出ていくような企業も二戸にも久慈にもたくさんありますので、そういった方々を世界との窓口になるような人材を育てたいという、そういうような思いをできるだけ地域の中に作っていくことによって、出ていった高等人材が地域に戻ってくるというような環境ができてくるような思

いがあります。今、どこに具体的にいくのかということ、例えば、何とか株式会社に連れて行きますっていうふうなお話はできないんですけど、そういった観点で各企業の経営の方と、いろいろお話をしながら、そういった夢を語っていただけるようなところに生徒を連れていけるとすごくいいのではないかなというふうに思っています。

あとは、達成度の話。これは、もうおっしゃるとおりです。達成したらいいのだということじゃなくて、次のステップをどうしたらいいのかということ、ずっと考えています。今、ちょうど第2期アクションプランの折り返しになっていて、全体の指標の見直しをトータルでかけようということで、今、見直しをかけています。また、その取組の中で、次のステップは何なのかというふうなやり方の問題、効果のある成果を上げるような、単に一部の数字を上げるのではなく、全体として上げるためには、もう少し違う観点、やり方をどうしたらいいのかということを考えています。単純に目標達成したから、もう手を抜いてあとは何もやらないということではなくて、そういうイメージでおります。いろんな取組を、地域の課題に対して進めて行くためのことを考えています。

**【熊谷二戸地域振興センター所長】** 地域振興センターの熊谷でございます。

今、田家構成員の方から、県北の観光が弱いと御発言がございましたけれども、まさにそのとおりでございまして、県内の観光客の入込数というのは回復傾向にあるとはいうものの、県北は、やはり横ばいといいますか、昨年度は「あまちゃん」の10周年効果なんかもありましたので、県北地域としては、やや横ばいを維持できたかもしれませんが、あまり増加には至っていない、県内の入込客数と比較しても、非常に少ないというのは御案内のとおりでございます。

御紹介のありましたとおり、御所野遺跡という世界遺産がございます。それ以外にも、お城ですとか天台寺ですとか、この地域には独自の観光資源が非常に多くあるのですが、なかなか、うまく生かしていないという事実がございます。施策の中でも御説明いたしましたけれども、今、北いわてアドベンチャーツーリズムという取組を今年度から進めております。これは、これまでの観光資源を、単体で売り込むのではなくて、例えば、ここには一戸町には御所野遺跡があります、すばらしい観光資源ですのでぜひ来てくださいと単体で売り込むのではなくて、それを、各資源をテーマ性を持って、繋げて、例えば、漆なんかで言えば、八幡平市から繋がる安代から浄法寺、そういった繋がり、テーマ性を持ったツアーを作るといことで、売り込むという取組を進めております。これに関しては、市町村単体ではやはりできない取組ですので、各市町村、それから商工団体、観光団体の方々、一体となって、今、そういうコースを連携して作り上げようという取組をやり始めています。そういった中で、一市町村単体ではなく、全体でこの地域を売っていくということに取り組んでいきたいと思っています。まだ、走り始めたばかりですが、なんとか商品を作り上げ、地域を売り込んでいきたいと思っています。

**【佐々木局長】** 続きまして、高橋 静子さん、お願いします。

**【高橋構成員】** 軽米町の高橋です。こんにちは。

うちは、軽米で旅館をしておりますので、観光のことについてとあって、この間も久慈のときにお話したんですが、何か私が話しようと思っていたことを、みんな言われちゃって。

今回は、このデータをいただき、非常に見やすく、改めて数字、データを見て、1つずつやっぱりこういうの大事なんだなと思い、すごくよかったと思います。

交流人口の拡大ですが、軽米にも観光協会あります。ただ、全然機能はしていません。本当に、都会から見れば軽米も二戸も、岩手の北だよなって、その頭しかないんで、さっき所長さんがおっしゃったように、北岩手という地域を、まとめてみんなで1つのものとして売らないと外からのお客様に理解してもらえないかなと、それは常に思っています。

アドベンチャーツーリズム、北岩手には、いろんなところがあるんですが、軽米は、特にこれっていうのはないんですが、北岩手を移動するときの足場として、どこに行くにも20、30分で行ける、それが最高の利点だと思っているんです。インターもあり、街なかから1キロもしないでインターに入れます。ですから、その辺の地の利を生かして、県北地域で軽米を拠点にして久慈に行っても二戸に行っても、どこに行っても30分ぐらいで移動できるよっていう、そういう場所として、軽米の強みかなと思っています。この間、テレビで、奈良県の熊野古道と比叡山延暦寺ですか、あそこの途中の村が人口500何人だかの日本一小さい村なんだけれども、外からの交流人口5万人あるっていうのが出てたんです。結局、村の人たちは、何にもないよとは言うんですが、外から来る人は、延暦寺と熊野古道に行くときには、必ずそこの村を通るから、軽米と同じなんです、立地的に。だから、絶対これを使うしかないというのは、すごく感じていました。場所によっては、1つの売り物がなくても、それを使って来てくださる方が満足できるような、そういうシステムを作るっていうか、それは非常に重要で。今回は八戸圏域にも、このプロモーションをやるっていうことで入ったので、結局、南部藩当時、八戸と北岩手は同じ地域なんですね。糠部33観音札所に天台寺が入っていたり、岩谷観音（※ 二戸市）が入っていたり、寺下観音（※ 階上町）が入っていたりと、県北、青森岩手県境で1つのコースになってますので、そういうのはもっと使えるのかなっていうのがありましたので、ぜひ、外からの観光地というわけではないんですが、北岩手を1つの地域としてまとめてみんなで売り込んでいくような、そういう施策をお願いしたいなと思います。特に新しいことはないんですが、いつも感じていました。

**【佐々木局長】** ありがとうございます。

軽米を県北地域のハブ地域にするというような発想で、非常に面白いなと思い、お聞きいたしました。何もないというような言い方を、地域の方々がされることすごく多いんですけども、好感を持ってきてくれる人がこれだけいるのだということも、やっぱり感じていただける機会は結構あるのではないかなというふうに思っています。地域おこし協力隊の方々にも来ていただいていますし、あとは、例えば軽米町ですと「ハイキュー」のファンの方々にも来ていただきます。今日の岩手日報にも、「Yahoo!検索大賞」で「ハイキュー」の映画版が第1位になっていましたが、こういうのがあると、ますます人を集める効果が出てくるかなと思います。地域で知らないことに気が付いてもらえる方々の御意見を参考にする

とか、そういったものをどうやって地域の元気に繋げていくのか、地域が知らない良さ、地域以外の方にはすごく響くような資源というのはたくさんあるんだと。そういったことを、我々がきちんと発信していけるような体制を整えていくというのが大事なんだろうなと思っています。

先日、移住体験ツアー、二戸と久慈地域でやったんですけど、最も移住に興味がある層の方が応募してきて、二戸と久慈にそれぞれ10名ぐらいの方がいらっしやって、非常に満足されて帰られていました。やっぱり、その方々が住んでいる地域にはないものがたくさんあるんだということを我々も気づくべきだなと、そういった視点を大事にしながら、地域をどんどん売り込んでいく必要があります。地域おこしで言います「よそ者、若者、ばか者」みたいな話がありますが、その「よそ者」の視点をどうやって我々生かしていくのかっていうのは知恵の絞りどころだろうと思います。そういったもの、何で繋げていくのかっていうのは手段の話で、例えば、現在それらをアドベンチャーツーリズムという形で繋いで、あとはその滞在型の何か楽しい体験型のを組み合わせるといふような話になっています。そこは地域の皆さんと相談しながら、我々としても、考えていければいいかなと思っています。

続きまして熊谷 盛さん、お願いします。

**【熊谷構成員】** 久慈の熊谷と申します。丸與木材という会社をやっておりまして、毎日山に行って現場で、ほぼ無言で働いていますので、皆さんのように口が達者ではございませんし、ちょっとまとまりがないかもしれません。

1つ目は、疑問に思っているところが記載されておりますので、お聞きしたい。業界以外の方々はちょっと、初めて聞くとわからないんじゃないかっていうところがあります。森林を伐採した後に林地残材として、これまで未利用であった枝や根元部分の端材をチップにすると、これが発電用のチップになるというふうな供給する体制の整備みたいな感じで書いてあるんですが、未利用材の基準ですね、何でも捨ててあると未利用材のような感覚になると思うんですが、私たち業界の中では、森林経営計画を立てた中での木から出たもの、もしくは、国有林から出たものというところが主な、そういう計画性を持った森林から出た端材が未利用材というふうになっている。これを、多分、他業種の構成員の皆さんが聞いて、何でも未利用なんじゃないのっていう感覚だと思うんですけども、バイオマス発電所は、これからもできていく計画が多いですし、チップの供給量は、多分、減っていくという中で、一般材的な未利用材も発電用になっていかないのかということをお聞きしたい。

若者の定着とか、そういうお話がいろいろ出てきてるんですけども、今うちで、いわて林業アカデミーのインターンシップを5名、明日まで引き受けているところがございます。久慈東高校の生徒さん5人ですね、女の子1人と、男の子が4人。その子たちといろいろ話してみますと、男の子は久慈で働きたかった、都会に出たくなかったのと聞くと、久慈が好きだし、親のもとで働いていきたいというような話をされ、女の子も、まあそんな感覚なんです。けれど、友達の話を知ると、男子はそういうことが多いし、女子はやっぱり都会の方ということで、そういう子たちもいるということをお知らせしておきたい。

これは、個人的に、岩泉町でのことですので県北広域ではないんですけども、相談した

いというか、御意見を伺いたい。台風 10 号で、岩泉町が甚大な被害を受けまして、安家地区も大変な被害を受けまして、その復旧中、安家の河川の拡幅をするということで、うちが近くに山林を持っていて、ちょうど伐採したところだったので、そこに安家川の残土を引き受けた。その引き受けた後、植林までしていただいて、3 年前ぐらいにちゃんと完了した。植林したカラマツというのは成長が早くて、50 センチぐらいの苗木が、3 年たつと 2 メーター以上になるんですけど、ちょっと栄養分が足りない土だったのか、3 年経っても、50 センチぐらいのままです。これを、このままいくと枯れるから、枯れずに、まだ辛うじて生きてるんですけども、これを、森林に戻すというのはなかなか難しいのかなってような感覚でいました。循環可能な森林に、なかなかできないのであれば、再生可能エネルギーでもやろうかなんてことを考えているところです。いろんな障害もあるんでしょうけれども、県の皆様のアドバイスとかをいただきたいなと思います。

**【佐々木林務室長】** 林務室の佐々木でございます。林業関係の御発言ありがとうございます。

お話ありました林地残材の活用の観点のお話でしたけれども、林地残材以外の燃料用材の、これからの需給の見通しなんですけれども、県としての取組におきましては、順調に燃料用材が供給されるよう林地残材も活用していきたいという面で、事業者さんへの支援を行っているところでございます。製紙用と燃料用のチップが競合しているのは全国どこでも同じなんですけれども、聞くところによりますと、関西の方では製紙用のチップに未利用材が価格で負けるといった状況もちょっと見え始めているとのことでございますので、予断を許さないところでございますけれども、残材と、残材以外、計画の材、連携しながらですね、円滑に供給できるように支援をして参りたいというふうに思います。

岩泉町のカラマツの植栽の現場については、たぶん、私も何回か、その付近を見たことがあるんですけども、やっぱり残土に植栽したカラマツというのは土が締め固まってしまっているんで、成長がなかなか難しいという状況は何回か見たことがございます。社長さんおっしゃいますとおり、燃料用材にするのであれば、もしかしたら、カラマツではない樹種の方が適しているのかなというふうには考えます。ちょっと私も、土質、硬さとかもよくわかりませんが、そういった面でちょっとアドバイスできるようなところはございませんけれども、樹種とか御検討いただきながら御活用いただければなと思います。

**【佐々木局長】** 県の中の話ですので、必要であれば岩泉の方にも、ただ今のお話を情報提供させていただき、何かやれることがあるのかなのか、その辺につきましては、県の中で協議をして、対応が可能かどうか検討させていただければと思います。

あとは、林業アカデミーで受け入れている方を受け入れていただいているということで、非常に心強いなと思います。ここ 10 数年で一番産業の状況が変わったのは、やっぱり林業で、再生可能エネルギーへの利用も然りですけど、それこそ 20 年ぐらい前のなかなか難しい時代からは大きく変わり、急激に脚光浴びてきた産業だと思っていますので、熊谷さんに御尽力いただき、地域を盛り上げる産業として頑張ってください、我々としても、御協力いただきながら、取り組んでいければと思います。

続きまして、桂川さん、お願いします。

**【桂川構成員】** 桂川です。よろしくお願いします。

九戸村のことにに関して私も言いたいことがあったんですが、みんな、中村構成員に発言していただいたようですので、私、食に関する食生活改善推進員というボランティア活動しておりますので、それについて、ちょっとお話していきたいと思っていました。

先ほど説明ありましたが、九戸村で実施されました自殺対策に参加させていただいております。ボランティア団体としていろんな活動には参加しておりますけども、県の方からも多大な御支援もいただいております。その中でもですね、私たち、やっぱりボランティアという、何て言うのかな、この辺で言えば、好きな人たちがやってるから、何、ヒマでやってるっていうようなことをおっしゃる方もあるんですけども、ボランティア団体として私たちも責任を持ってやっておりますので、それなりにですね、これまで以上に御支援をいただければと思っております

もう1つですね、先ほど、漬物の話があったんですけども、この前九戸村でも、久慈の方たちの集まり、手づくり交換市というのがありまして、その中に漬物なんかを出していただいて、大変喜んでいた会でしたが、その漬物が出せなくなった。漬物があるから、私たちも行って参加していたんだけど、漬物がなくなったら、もう、行かなくてもいいかなっていうような感じになってきたんです。もし、保健所さんで、二戸地区だけでもいいから、県北のこの郷土料理っていうの、もう少し継続していきたいんで、二戸の保健所さんだけでも許可するときには、それを販売できるっていうか、交換っていうのか、そういうのもできるような形に、もしできるならばそういうふうなことをですね、機会を、いただきたいなと思っております。

それから私たちの食生活改善推進の会議に地域おこし協力隊の方が2名、今年度加入していただいたんですけども、その方たちの、中村さんもおっしゃったように、住宅問題。この人どこに居て、どこに連絡したらいいのかなというようなこともありますんで、そういう御助言ですか、村の方の責任といえば村の方の責任かもしれませんが、県の方からも御助言いただければ、そういうところも安心して、地域おこし協力隊の方たちも活動できるのかなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**【佐々木局長】** ありがとうございます。

自殺対策については、担当の方から。

漬物の話は、私も思うところがあります。どうしても、法のできている背景というのは、やっぱり人の命に関わる事案が発生したということが一番の根底にあるんで、それを何とかしなければいけないという、この趣旨はわかるんですけど、だとすると、漬物という、それこそ地域のよさがなくなってしまうとか、そういったことはやっぱり寂しいという感じが致します。なので、販売という形ではなく、何かと組み合わせて、例えば地域で食べていただく物として供給をするだとか、飲食店との連携だとか、どんな生かし方があるのかというのは皆さんと一緒に我々としても考えていかなければいけませんし、当然その設備が整備ばで

きることでもあるので、どういった単位でやれば設備、今ある設備を使っていけるのか、そういうことも含めて、御相談していく余地はあると思います。

地域おこし協力隊の住居、住む場所っていうのは、先ほどお話をしたとおり、今何ができるかっていうところで盛んに検討をしているところです。やっぱり重大な課題だというふうに認識しておりますので、そういった情報をいろんな皆さんからもらいながら、こういったところに住む場所がある、必ずしも新しいものを建てなきゃいけないのかどうかということ、例えば、空き家がたくさんあるんだけど、例えばこの家には実は、1年に1回戻ってくる人がいて、仏壇が置いてあるからなかなか貸せないとかいう方もいらっしゃるってとか、いろんなお話を聞くので、役場でもいろいろな取組をやっていますから、そんなところとの連携もうまくできないかなということ考えてます。いろんな情報を皆さんから頂戴しながら、一緒に考えていければと思います。

**【東保健課長】** 二戸保健福祉環境センターの東でございます。桂川構成員には、日頃からお世話になっております。所属されます九戸村食生活改善推進協議会さんには自殺対策での事業にも御協力をいただいたところでございますけれども、それも含めまして、地域の健康づくり、生活習慣病予防であったりとか、そういった面で大変お世話になっております。

ボランティアで頑張っていたらということ、我々もどうしてもこの地域の、非常に発信力のある皆様というところで、連携させていただいて、負担をおかけしたりしていることも多々あるかと思うんですけれども、なるべくそういった負担を減らしながら一緒に取り組んでいければいいなと考えております。何かあれば忌憚のない御意見等々いただければ、大変ありがたく思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

**【佐々木局長】** お待たせいたしました。岩本さん、お願いします。

**【岩本構成員】** 皆様、大変お疲れ様でございます。洋野町種市でワイヤーハーネスという電子部品を作っている製造業 岩本電機と申します。

私は、いろいろと御説明あったところで、継続性というポイントでちょっとお話をしたい。

資料の1-1、1-2、こちらを見ますと、中長期のプランの最中かと思えますけども、未達成っていうのがある。この未達成というのは、本当に達成できるのかといったところがポイントかなと思っています。例えば、3年連続で未達成だったら思い切ってやめるとか、ちょっと他の施策の方にウエイトを置いたほうがいいのか、とにかく、ずるずる行かないような御判断というか、私も経営計画とか立てて中長期経営計画立てますけれども、やっぱり高い目標でもってやりますけれども、いやこれってちょっと無茶だったよねというのは見直しが必ず必要になってくると思いますので、今年も未達、来年も施策に入ってるけど未達ということであれば、そもそもこれって実現可能なのっていうのが、見ていて、この資料で思いました。

それから、人口減少対策に関しては、この施策の方針を見ましたけれども、いろんな対策されていて、ワークショップであったりだとか企業を知ってもらう事業はぜひ継続していた

だきたいなと思います。洋野町はですね、今年の広報で8月から10月まで、人口対策の特集を組みました。3ヶ月間にわたって町民への意識づけもできたのかなというふうに思っていますので、来年度も、形を変えてもいいので、こういうことはやっぱり継続して欲しいと思っています。

それから、手前どもの話なんですけども、10月17日に、お隣の階上町という場所に新しい工場を竣工させていただきました。なぜ新しい工場、こういった時期に設立したのかというのは、やっぱり国の補助金を活用させていただいたからです。なので、県北独自ってというのは、なかなか難しいと思うんですけども、大体ものづくり補助金とかはですね、機械とか設備に対しての補助金で、もちろんそれも、国の方なんですけども、先ほどあった建物は、補助金がつかないのがちょっと多いかなと。そうするとやっぱり投資の意欲であったりだとか薄れますし、事業、計画書の記載のフォローアップ、商工会さんとかもやってくださいますけれども、やりたいって言って出したはいいけども、やっぱりその計画書だとかっていう、なかなかボリュームありますので、その辺のフォローアップ、をしていただければいいのかなと思います。

それから、今お話なかったんですけども、10月から最低賃金が大幅にアップしましたし、さらに上がる動きもあります。もちろん、うちの取引先の方に単価アップの交渉っていうのをしておるんですけども、こちらに対する何か補助というか、事業というか施策が、盛り込まれてくると、もっと事業者としてはやりやすいのかなというふうに思っています。

ちょっと1つ、私、個人的な御提案があるんです。三陸復興道路が八戸から仙台まで無料で繋がってすごい便利、私も利用させていただいてますが、サービスエリアとかワーキングエリアというのはない。休憩するところは、道の駅とかになるのかなというふうに思っているんですけども、例えばですね、観光バスとか、個人でもそうですけれども、トイレのときに、1回50円でも100円でもいいと思うんですけど、払って、それはキャッシュバックして、それを道の駅で使うというような、いろいろ問題があると思うんですけども、半強制的に売り場へ移動させる仕組、その100円でジュースを買おうと思ったけど、これもちょっと買ってみようかなというように、地域のよさだとかっていうのを、ちょっと強制的に見ていただいたりとかする仕組をつくれれば面白いかなと思います。もちろん問題はあると思いますね、キャッシュバックするときの、機械の導入の費用であったりだとか、ここの地域、お金取るからトイレを我慢して南まで行っちゃうとか、その辺でされたりとかしたら、もっともっと大変だと思いますし、子供たちはどうするのだとかもあると思うんで、様々な障害あると思うんですけども、試験的にも、入れてみてもいいのかなあなんていうふうに思いました。来年とか再来年のこの施策推進方針に入っていることを祈ります。

最後に、地域おこし協力隊の方に、支払われる金額、年額でもいいんですけど、教えていただけたらなと思っております。

**【佐々木局長】** ありがとうございます。

指標の達成、未達成の話。これ、10年間の岩手県民計画の中で、長期的にやっているもので、それを3期、4年、4年、2年に分け、それで今年が真ん中の4年のちょうど2年目に

なっています。4年が終わった時点で指標を一旦見直しています。今、ちょうど2期目の真ん中で、できるのか、できないのかという検証、まさに岩本さんがおっしゃったような観点でやらせていただいています。それが今度、12月の県議会あたりで、御審議いただくという形になっています。それこそ御提案いただいたことは非常に重要な話ですので、単に指標だけじゃなくて、やり方をどうするのかということも含めて、我々としても考えていかないといけないと思っています。

それから人口減少対策、洋野町は、非常に一生懸命で、人口問題の対策本部も作られて、一生懸命やっつけてらっしゃる。少子化対策のワークショップにも積極的に関与していただいて、やっぱり真剣さが大分伝わってくるなという思いをしています。人口減少対策は、やっぱり、単一の市町村の問題ではなくて、県域全体の問題だというふうに思っています。県としても、その辺は積極的に関与しなければなりません。今年は、県全体の重点ですし、おそらく来年もそういった形で重点施策のトップになるものと思っております。そういった意味で、今回の7年度の方針を説明させていただきましたので、引き続き取り組んで参りたいと思います。

それから補助金の話。おそらく国の補助金がメインになってくると思います。県全体の制度の話ですので、なかなかハードの補助金っていうのは、振興局単体で創出できるような状態ではないんですけれども、いろいろ御要望がありましたら、我々の方にお話をいただければ、本庁の担当の方にもお繋ぎいたしますし、いろんな情報提供させていただきます。それこそ事業の拡大意欲が減退されるみたいな話では、やっぱりまずい、そういったことにならないようにやっていきたいと思っています。

最低賃金についても、おっしゃるとおりかと思えます。ただ、物価が上昇している、賃金が上がらない、物価上昇が上にいってるということはやっぱり景気的にはマイナスになるということですので、そこがやっぱりうまく回っていくという状況を作っていくのが今の施策の方向性だろうと思っています。それが、やっとな賃金面から少しずつ物価の上昇に追いつくような流れができてきたというふうな見方ができるように、あれもこれもしていかなければいけないなというふうに思っていますので、御提案のような趣旨も踏まえて、本庁といろいろと議論して参りたいと思っています。

あと、キャッシュバックの考え方については、高速ではないんですけど、ちょっと同じような、似たような話があるので、御紹介させていただきます。

**【山本企画推進課長】** 沿線の路線バス、洋野と久慈を結ぶ路線、いわゆる生活路線ですので、なかなか人が乗らない。特に通学が中心なので生徒が減少して、どんどん乗客が減っており、1つの案として、乗車券と、いわゆる商品券を組み合わせた企画切符の形なんですけども、多くの回数券買っていただくとプラスアルファでその商品をつけて、降りた先の沿線のところで、例えば道の駅とかで買い物ができるよというようなものを作って、新たにこれは乗ったことない人もこの機会に、そのほか、パッケージでイベントとかの参加のときに使うお金として企画切符を使えますよという形で、新たに掘り起こして、潜在的に、乗ってなかったんだけど、これを機会に乗ってみた、乗って見たら結構いい路線じゃないかというような利用促進でやっています。これを、今の御意見にも応用して何か考えられないかなといった検討

をして参りたい。

もう1つ、地域おこし協力隊員の活動費は、隊員の期間3年ですが、概ね280万円の活動費が決まっています、ただ、任用する自治体別によってプラスの経費を加算することがあり、まちまちであります。年間280万円単位で3年間です。

**【岩本構成員】** 1年間で280万円、掛ける74名ということで、その方々が3年で半分いなくなってしまう可能性があるということですね。

**【山本企画推進課長】** はい。

**【佐々木局長】** いろいろ御意見頂戴いたしました。今、一通りお話しいただきましたが、いろんな方々のお話を聞いて、ここはもう少しということもあったかと思えますので、ぜひ皆さんから、またお話をいただきたいと思えます。

**【高橋構成員】** ちょっと1つ言い忘れたんですが、県の環境生活部 資源循環推進課というところでフードロスキャンペーンをやっているんです。うちも食品関係の仕事をしているので、いつもこのキャンペーンの御案内いただくのですけれども、これは食品のフードロスをなくそうという取組なんです。私たちにすれば、すごくいいと思うんです。お客様、どうしても宴会やったりすると残ったりするので、いつも、もったいないなあと思いながら、お出ししていますが、何年前か、皆さんの啓蒙のためにということでウェットティッシュをくださる取組だったんですが、これはいいんですが、その前に持ち帰りの容器を作られたことがあったんです、県の方で。もう、何か、あれはどうでしょう。私、すごく無駄だったり、ものすごい経費かかったと思うんです。皆さんにも、そういうのがなかったでしょうか、環境生活部の方で。うちには300個ぐらいきたんですが、ほとんど使わないで、使い勝手がすごく悪くて、その箱のデザインを、特別にデザイナーさんに頼んで作ったものらしいんですが、何でこんなの作ったんだろうと思ってました。すごく、予算の無駄遣いだったんじゃないかなあと思ったんですが、私の感想ではそういう感じでしたので、別に、もう終わったことですので、どうってことはないんですが、ただ、後からそういう反省がなかったのかなあと思いました。

**【佐々木局長】** ありがとうございます。保健福祉環境センターから何かありますでしょうか。

**【高橋環境衛生課長】** ありがとうございます。個人的には、あの当時、コロナ禍であったことから、宴会というものが自粛というか、半ば強制自粛のような形で、その容器を取り扱っているところを見るのがなかったもので、御意見として何うだけにとどまってしまうんですが、その時の展開はどういったものであったかという、その後の検証を承知できておりませんので、機会がありましたら調べてみたいと思えます。

**【佐々木局長】** そうですね、1回、事業を県費でやれば事業評価、今回も皆さんにお示したようなダイジェスト版になるんですが、きちんと評価をしているはずですが、今続いてないということは、あまり効果が出なかったということで、1年で終えたんだろうと思います。ただ、フードロス解消するにはどうしたらいいのかというのは重要な問題だろうと思っています。我々も、いろんなところで懇親会に参加する機会があるんですけど、もったいないな、私は単身赴任なので、持って帰りたいなという思いがありながら、それが、叶わないこともあつたりしますので、そのバランスをうまくとっていくというのは、みんなで考えていく必要があるのかもしれないかもしれません。過剰なもの、我々も求めないとかですね。きちんと食べきれるように、お互いに理解した上で作っていただいて、美味しくいただいて帰るとというのが一番幸せな形になるんじゃないかと思います。これは、いろんな会を仕掛ける側とも相談しながら、我々も考えていく必要があるかなと思います。

ほかに、何か、皆さんから、ございますでしょうか。まだ10分、15分ぐらいあります。我々の説明が十分でなかった部分もありますので。

**【中村構成員】** 10月ぐらいに、九戸村のオドデ館にシンガポールから来たっていう親子2人がおりました、本当は「ハイキュー」のために軽米の宇漢館に行きたかったのに、バス間違えてしまってオドデ館に来ちゃったと。そこから、どうやって車に行ったらいいかわかんなくて、その職員の人たちに声をかけようかどうかわロウロしてたところに、うちの「ジェラテリア」のスタッフが、ちょっとお手伝いしたと。そしたら英語しか話せないの、社長助けてくださいと私に電話がかかってきて、結局、私は会話ができたので、しょうがないので、車に乗せて宇漢館に届けたんです。インバウンドは確かに盛岡泊なのかもしれませんが、決して県北に来ないわけではありませぬので、「ハイキュー」に関しては残念ながら聖地という言葉は使えなくなると聞いていましたが、いずれにしても、アニメ効果は絶大で、海外からは、逆にどんどん来るんですよ。その受け皿が全くないっていうのが、今回、はっきりわかりまして、英語表記もなければ、もちろんスタッフさんもない、少ないので、誰に聞いたらいいのかもわからないし、観光案内所もないしと、本当に困った方々がいっぱいいらっしゃるなと思いました。外国人の人って、今、ツアーじゃなくて個人で来るお客さんがすごく増えてきてるので、聞けば、昨日の夜東京に来たのに、今朝、新幹線に乗って二戸に来て、夕方5時に帰るというようなダンガンを平気でやるんですよ。なので、せっかく来たら、何とか楽しんでお金を使って帰っていただきたいと思いますので、そういった、コアなターゲットになるのかもしれないんですが、そこにも焦点を当てた何か観光戦略があってもいいのかなと思いました。

**【熊谷地域振興センター所長】** まさに「ハイキュー」は、絶大な効果がありまして、二戸駅、私は住んでるので駅はあまり使わないんですけども、結構外国の方がバスに乗っていくのを見かけるですとか、あと、おぼない旅館に泊まって、タクシーで、今日もタクシー、明日もタクシーと、タクシーで行かれる方が結構いらっしゃるって聞いています。おっしゃるとおり、大変失礼なんですけど、軽米町に行ってみても何も無い、受入体制は弱いのではないかなと、

ちょっと感じるころはあります。先ほど、紹介させていただいたアドベンチャーツーリズムの中に入るかわからないんですが、ただ、考え方としては、やっぱりそういった方々に、交通機関も含めて、ガイドとか休憩所とか、お昼を食べる場所とか、そういったものをパッケージにして、紹介できるようなものというのがやっぱり基本なので、そういった考え方は軽米町の方もアドベンチャーツーリズムを作り上げるワーキンググループに入ってますので、ぜひ持ち帰っていただいて、まずは町で取り組んでいただければなとは思いますが、何か御相談があれば、必要なアドバイス、できるアドバイスはしていきたいと考えております。まさに、感じられていること、我々も感じております。ちょっと前向きな答えになっておりませんが、何かできることがあればと思っております。

**【佐々木局長】** 今のこと、すごく大事だと思っております。軽米の話もそうですし、沿岸の方に、久慈の方に行くと、みちのく潮風トレイル、外国人がバンバン山の中を歩いている。ああいうところに全部英語の表記を作れっていうのも、なかなか難しい話ではあるんですけど、何らかの何かポータルみたいなものがあったりとか、1つ、ここにかければ何かいろんなちょっと相談ができる、電話かけると調べればいいよっていうことを作るっていうこともアイデアとしてはあるのかなと思います。必ずしも、そこに全部がない、あらゆるところに英語表記がないと駄目だということではなく、例えば地図アプリなんかを見ても、英語のアプリを持ってらっしゃる方であればきちんとわかるような形になっていますし、例えば今、普通のスマホなんかでも、会話ができるような状況ですので、そういった使い方を我々自身が学ぶとか、ソフト面で何かできないかなと、ちょっと今、思いましたので、そこは、やっぱりどういったニーズがあるのかも含めて、皆さんと一緒に考えていくということかと思えます。何か、「ここは」というようなところがあるとすれば、また、御意見を頂戴出来ればと思えます。

皆さん、何か他にございますでしょうか。

**【松川構成員】** お聞きしたいんですけども、地域おこし協力隊の人材の方々は、1次産業の人たちは、確かに野田村でも農業に就農して生活を成り立たせている方はいらっしゃいますけど、最近の目新しい形は、自分たちで特産品から商品開発をして飲食店をやってみたいとか、海の産業がうまくいかないんだったら、荒海ホタテが採れなかったら、食べるんじゃなくて真珠をつくれなにかとか、鉱山の坑道跡がワインとかの貯蔵にもいいんだたらば、コーヒー豆の熟成にもいいんじゃないかとか、なんかすごい、ちょっと私には想像を超えるような発想を持った方々いるんですけど、そういうのって、私も聞いて「へー」とは思うけど、じゃあどうやってそれを商品化していくのかって、その人はプロじゃない、発想があるけれど、それを実現したいけれど、どうやってやっていくのかと言うときに、年に何回かのセミナーとかを開催してくださってるっていうのはあったんですが、その発想が生まれて、そこで、こういうふうな制度使ったら研究費あるよとか、どういうところに相談に行ったらいいよとか、まさに一緒に、その実現に向けて、起業準備をやっていただけるような人材確保とか派遣とかっていうのはあるのでしょうか。

**【田家委員】** 我々が何かそういうのをしたいって言ったら、自分でそれを探します。地域おこし協力隊だからといって、そこまでサポートする必要はなく、その人が、どれだけやる気があるかどうかじゃないでしょうか。

**【中村構成員】** 産業振興センターの無料サポートを利用できます。

**【佐々木局長】** 解決策が見えてきたのかなと思います。基本的に、アイデアというのは非常に大切なので、我々としても、そのアイデアを地域のためにどうやって生かしていくかという視点は大事だと思います。やっぱり産業ですとか、商品開発だとか、自分で商売を成り立たせるっていうのは、かなり自己責任に関わってくる、あと、その商売のノウハウに関わってくるのでありますので、行政として、どこまで支援できるかというのは確かにあるかと思いますが、それを地域全体の利益として、どうやって使っていくのかというのは、我々行政としての、その関与の仕方の大事な部分だろうと思います。地域を盛り上げるこんなすてきな人がいるということなのであれば、それを発信して、そこに来てもらえる人をどんどんふやすだとか、例えばコーヒーを作ってる人とケーキを作っている人と、その材料になるものを作ってる農家を結びつけて、そういう方々と交流ができるようセッティングするとかというような使い方であると思います。我々も地域を盛り上げるにはどうしたらいいかという観点で皆さんと協力していければいいんじゃないかなと思いますので、いろいろ情報提供いただければ、一緒に考えていきたいと思います。

その他、何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

様々、広範にわたって貴重な御意見いただき、ありがとうございます。いただいた御意見につきましては、いろいろ参考になる御意見があったと思っています。今後とも、いろんな場面場面で御意見をさらに頂戴できれば嬉しいと思います。

それでは進行を事務局に戻します。

#### 4 その他

**【阿部副局長】** 皆様、大変ありがとうございました。

最後に次第の4に「その他」を設けておりますけれども、構成員の皆様、或いは県の方から何かございますでしょうか。

#### 5 閉会

**【阿部副局長】** なければ、以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。

御出席いただいた構成員の皆様には、後程お礼の品を送らせていただきます。

本日は、お忙しい中、大変ありがとうございました。